

製品名: HABP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11884**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	63kDa

抗原情報

遺伝子名	HABP2
別名	HABP2; HGFAL; PHBP; Hyaluronan-binding protein 2; Factor VII-activating protease; Factor seven-activating protease; FSAP; Hepatocyte growth factor activator-like protein; Plasma hyaluronan-binding protein
遺伝子 ID	3026.0
SwissProt ID	Q14520
免疫原	HABP2 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 270-350

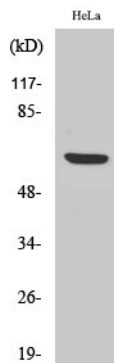
背景

この遺伝子は、セリンプロテアーゼのペプチダーゼ S1 ファミリーのメンバーをコードします。コードされているプレプロタンパク質は肝細胞から分泌され、タンパク質分解によって重鎖と軽鎖が生成され、成熟ヘテロ二量体を形成します。さらなる自己タンパク質分解により、より小さく不活性なペプチドが生成されます。この細胞外プロテアーゼはヒアルロン酸に結合し、凝固系および線溶系において役割を果たしている可能性があります。この遺伝子の変異は、非髄様甲状腺がんおよび静脈血栓塞栓症の感受性と関連しています。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じ、そのうち少なくとも 1 つはタンパク質分解によって処理されるプレプロタンパク質をコードしています。 [RefSeq 提供、2016 年 1 月],機能:フィブリノーゲンの α 鎖を複数部位で切断し、 β 鎖の Lys-53 と Lys-54 の間を切断しますが、 γ 鎖は切断しません。そのため、フィブリン血栓の形成を開始せず、直接線溶を引き起こしません。プロトロンビンとプラスミノゲンを切断 (活性化) しますが、不活性な単鎖尿中プラスミノゲン活性化因子 (プロウロキナーゼ) を活性な二鎖型に変換します。凝固第 VII 因子を活性化します。 ,PTM:グリシン 23 またはメチオニン 27 でのタンパク質分解切断により 50 kDa の重鎖が生じ、アルギニン 313 またはリジン 319 での切断により 27 kDa の軽鎖が生じます。重鎖は Lys-169 または Arg-170 でさらにタンパク質分解により切断され、2 つの不活性な 26 kDa 断片が生じ、軽鎖は Arg-480 でさらにタンパク質分解により切断され、17 kDa と 8 kDa の不活性断片が生じる。 ,類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属する。 ,類似性: クリングドメインを 1 つ含む。 ,類似性: ペプチダーゼ S1 ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: EGF 様ドメインを 3 つ含む。 ,細胞内局在: 不活性な単鎖前駆体として分泌され、その後活性化されてヘテロ二量体となる。 ,サブユニット: ヘテロ二量体; ジスルフィド結合。 50 kDa の重鎖と 27 kDa の軽鎖がジスルフィド結合で結合したヘテロ二量体。 ,組織特異性: 遍在的に発現する。 ,

研究分野

-

画像データ



HABP2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析